

だい き しょうがいしゃふくしけいかく
第2期ひょうご障害者福祉計画

わかりやすい版^{ばん}

ともに くらす ひょうご



ひとり
一人ひとりが尊重され、
たが おも なか
互いへの思いやりとつながりがある中で、
す ちいき ばしょ
住みたい地域・場所で、
く しゃかい
ともに暮らしていける社会をめざして

ねんがつ
2022年3月
ひょうごけん
兵庫県



ひょうごけん
兵庫県がめざす
みらい
未来の姿をのぞいてみよう

『一人ひとり 互いへの思いやりと 住みたい地域・場所で、と』

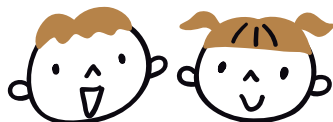
だれ じぶん ひと
誰もが、自分らしさを認められ、
まわりの人たちとやさしい気持ちでつながり合い、住みたいところで、
ともに暮らしていける、兵庫県はそんな未来をめざしています。

そして、もっと先の未来(2050年)では、このような計画がなくても
だれ じぶん せいかつ みらい えら
誰もが自分らしい生活や未来を選ぶことができ、
ごく自然に互いを応援し合うことのできる、
そんな思いやりあふれる
まちの姿をえがいています。



Q & A

ひょうご
しょうがいしゃふくしけいかく
障害者福祉計画を
もっと知ろう

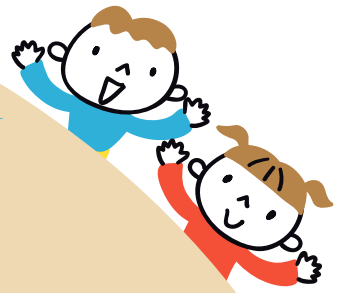


Q1 しょうがいしゃふくしけいかく
「障害者福祉計画」って
どんな計画ですか？

A1 しょうがい ひと かぞく のぞ
障害のある人やその家族が望む
みらい い しゃかい けんみん
未来、生きやすくする社会を県民
みんながかなえていく計画です。

『^{そんちよう}が尊重され、 つながりがある中で、 ^{なか}もに暮らしていける社会』 ^{しゃかい}』

すてきな
みらい
未来だね!



Q2

だれ
誰のための
けいかく
計画ですか？

A2

しょうがい ひと くわ
障害のある人に加え、ひき
こもり状態にある人、障害
のある人の家族など支援を
必要とする人、そして県民
みんなのための計画です。

Q3

だれ
誰がこの計画を
すす
進めていくのですか？

A3

ぎょうせい せんもんしよく ひと がっこう ちいま
行政をはじめ、専門職の人、学校や地域、
ボランティアなど兵庫県に暮
らすあらゆる人たちが協力
して進めていきます。



ひと でささあ で支え合う

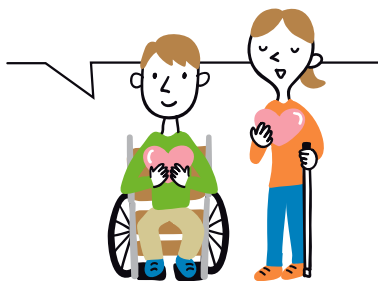
みんなが、ともに学び、
理解を深め合うことができるまち

たとえば、こんなことに取り組みます

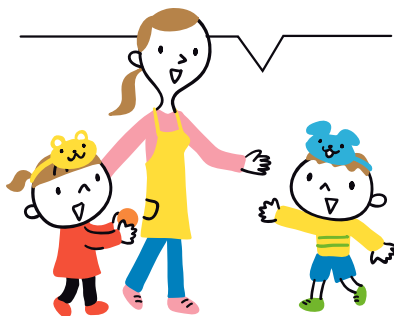
しゅうがくまえ しょうちゅうがっこう
就学前から小・中学校、
こうこう だいがく しょうしょく
高校、大学、就職までずっ
とサポートします。



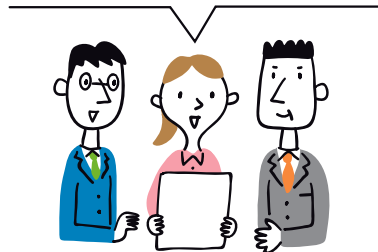
じゅうじつ
こころのケアを充実させ、
しょうがいしゃ まも
障害者のいのちを守ります。



みぢか こ
身近なまちでの子どもたち
のまな そだ
の学びと育ちをサポートし
ます。



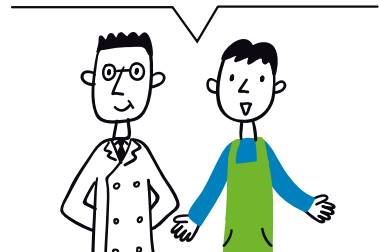
いりょうてき ひつよう こ
医療的なケアが必要な子ど
もへの支援をワンストップ
しえん
で行います。



やうぐケアラーがそうだん
相談でき
るばしょ しえん う
場所をつくり、支援を受
けやすくなるようにします。

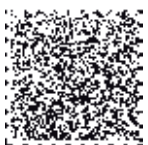


しょうがいふくし ささ
障害福祉サービスを支える
じんざい そだ じぶん せいかつ
人材を育て、自分らしい生活
をおく
を送れるようサポートします。



もっとくわしく知りたい方は

すべ ひと じんかく こせい そんちよう とも りかい ふか ささ あ しゃかい
『全ての人が、人格と個性を尊重され、共に理解を深め支え合う社会』
だい き しょうがいしゃふくしけいかく
(第2期ひょうご障害者福祉計画 P26 ~ P31) をごらんください。



さんか
参加
できる

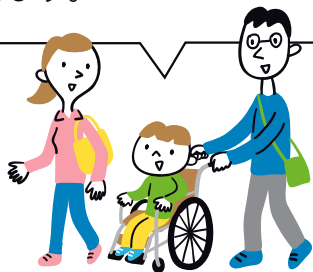
だれ じぶん ちから はたら
誰もが自分のもつ力をいかして働いたり、
あらゆる活動に参加しているまち

たと ともく
例えば、こんなことに取り組みます

ひとり ちから はっき
一人ひとりがもつ力を発揮
できる訓練や仕事体験の
きかい じゅうじつ
機会を充実させます。



だれ りょこう
誰もが旅行しやすくなるユ
ニバーサルツーリズムを進
めます。



しごと ながつづ
仕事が長続きするよう、さ
まざまな人が協力してサ
ポートします。



げいじゆつ たの
芸術やスポーツを楽しむこと
のできる環境を作ります。



こうちん あ
工賃を上げていけるよう、
けいえいしゃ じぎょうしょしょくいん いしき
経営者や事業所職員の意識
こうじょう
を向上させます。



しょうがいしゃ いし たいせつ
障害者の意思を大切に
そんちよう さべつ ぎやくたい
尊重し、差別や虐待のない
まちにします。



し かつた
もっとくわしく知りたい方は

すべ ひと も ちから はっき たよう しゃかいさんか しゃかい
『全ての人が、持てる力を発揮し、多様な社会参加ができる社会』
だい き しょうがいしゃふくしけいかく
(第2期ひょうご障害者福祉計画 P32 ~ P35) をごらんください。



つた えたい / し 知り たい

じょうほう
情報
かよ あ
で 通い 合 っ

だれ じぶん かんが つか あいて ところ かよ あ
誰もが自分の考えを伝え、相手と心を通わせ合うことができ、
ひつよう じょうほう え
必要な情報を得られるまち

たと えば、こんなことに取り組みます

ユニバーサルデザインな
だれ
ど、誰もがわかりやすい
じょうほうはっしんおこな
情報発信を行います。



さいがい かんせんしょうたいさく たいへん
災害や感染症対策など大変
なときでも情報が伝わるし
くみを整えます。



しゅわつうやくしゃ ようやくひっき もう
手話通訳者、要約筆記、盲
ろう通訳、失語症者支援、
てんやく ひと そだ
点訳ができる人を育てます。



しゅわ ひろ けんみん
手話を広めていけるよう、県民
む こうざ しょうちゅうがっこう
向けの講座や小・中学校での
がくしゅうすす
学習を進めます。



パソコンやスマートフォンを
つか ひと じょうほうかくさ う
使えない人に情報格差が生
まれなよう支援します。



まな きかい ぶ
ICTを学ぶ機会を増やすと
ともに、障害特性を理解し
た ICT 指導者を育てます。



もっとくわしく知りたい方は

すべ ひと じょうほう しゅとく りようとう しゅだん かくほ たが りかい おも かよ
『全ての人に、情報の取得や利用等の手段が確保され、互いの理解と思いが通い
あ しゃかい だい き しょうがいしゃふくしけいかく
合う社会』（第2期ひょうご障害者福祉計画 P36～P39）をごらんください。

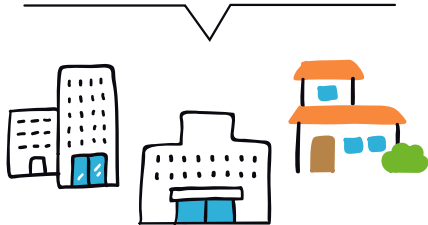


まち・もの で包みこむ

だれ す ばしょ あんしん く
誰もが住みたい場所で安心して暮らすことができ、
りよう
利用しやすいものであふれたまち

たと
例えば、こんなことに取り組みます

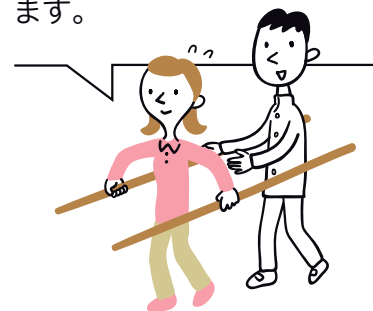
しょうがいとくせい
さまざまな障害特性に
たいおう しせつ かんきょう ととの
対応した施設や環境を整
えます。



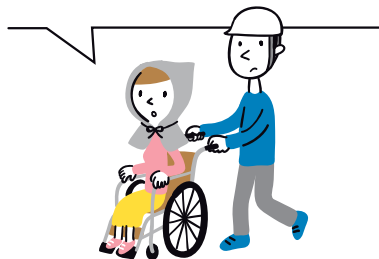
しょうがい ひと じぶん いし
障害のある人が自分の意思
す ばしょ えら
で住む場所やスタイルを選
べるように支援します。



こ おとな みちか
子どもから大人まで身近に
りハビリできる環境を整え
ます。



ひとり ひなんけいかく
一人ひとりの避難計画の
さくせい すず さいがい そな
作成を進め、災害に備え
ます。



なんびょうそうだん そうだん
難病相談センターで相談で
きる内容を充実させます。



しょうがいとくせい たいおう
あらゆる障害特性に対応で
きる、かかりつけ医や看護
し ほんしんし かくほ
師、保健師を確保します。



し かつ
もっとくわしく知りたい方は

すべ ひと みずか えら ばしょ あんぜん あんしん ゆた せいかつ
『全ての人が、自らが選ぶ場所で、安全に安心して豊かに生活することができる
しゃかい だい き しょうがいしゃふくしけいかく
社会』(第2期ひょうご障害者福祉計画 P40 ~ P44) をごらんください。



かんた
幹太くん!

ちゅうがっこう わか 中学校ともお別れだねえ

かんた しょうがい
幹太には障害があります。でも中学校ではその障害がなくなるのです。それは、せんせいがた せいと
先生方も生徒のみなさんも幹太を変えようとするのではなく「どう
かんた さんか ささ
やったら幹太も参加できるのか」「どんな支えがあれば安心して過ごす
とができるのか」。いつも幹太の内面に気持ちを向けて下さっているから
です。がっこうせいかつ なか つぎつぎ
学校生活の中で次々とやってくる障害も、しょうがい
しょうがい と ぼら
の障害を取っ払っていただきました。これは本当にすごいこと！障害者
きょうせいしゃかい りそう せかい
との共生社会の理想として世界レベルで語られている内容です。そんな
しゅうい はたら かんた すこ こた
周囲の働きかけに、幹太も少しずつつべられるようになり、みづか いし
自らの意志で
いろいろなことにチャレンジできるようになっていきました。

いつでもどこでも安心して過ごすことができる中学校が、あんしん す
幹太は大好きで、ちゅうがっこう かんた だいす
した。わたし かぞく
私たち家族も、そんな幹太の姿を見ることができ、ほんとう しあわ
ぱいの3年間でした。かんた
幹太は「もうすぐ中学校ともお別れだねえ。なんだ
かさみしいよお」とよく言っています。

みなさんにももらった、たくさんのステキな思い出とたくさんのゆうき むね
に、これからもかんた
幹太らしく生きていきます。そして、これからかんた す
すそれぞれの場所で、ちゅうがっこう おな
中学校と同じように幹太がかんた
居られる場所
「安心して居場所」を築いていけたらと思っています。

みなさんがおも
想ってくれていたのと同じように、かんた
幹太も、
ちゅうがっこう であ
中学校で出会ったみんながこれから先もさき しあわ いっぱい
幸せ一杯の
まいにち つづ
毎日が続くように心からねが
願っています。
ねんかん ほんとう
3年間、本当にありがとうございました。
みんなのこと、ずっとずっとだいす
大好きです。

かんた はは
幹太の母

てがみ ぜんぶよ
※お手紙を全部読みたい人は、
ほんべん
本編 P2～3 をごらんください。



はっこう ねん がつ ひょうごけん
発行：2022年3月 / 兵庫県

04 福 P2-047A4